

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第4部門第1区分  
 【発行日】平成18年6月1日(2006.6.1)

【公開番号】特開2000-319950(P2000-319950A)  
 【公開日】平成12年11月21日(2000.11.21)  
 【出願番号】特願平11-128368  
 【国際特許分類】

**E 0 3 B 11/00 (2006.01)**

**E 0 3 B 11/16 (2006.01)**

【F I】

E 0 3 B 11/00 A

E 0 3 B 11/16

【手続補正書】

【提出日】平成18年4月4日(2006.4.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

前述した従来の公知の送水装置は、仕切壁で仕切られた各水室(A, B, C)の1つ宛の下部に、水槽本体の外からの操作でその水室の内部と連通、遮断できる開閉弁 $V_1$ をポンプ $P_1$ ,  $P_2$ の数だけ設け( $V_1 - A$ ,  $V_2 - A$ ,  $V_1 - B$ ,  $V_2 - B$ ,  $V_1 - C$ ,  $V_2 - C$ )、図3(a)の場合は、ポンプ $P_1$ の収容筒11の後端に取付けた二股の連絡管17-1を水室Aの開閉弁 $V_1 - A$ と、水室Bの開閉弁 $V_1 - B$ とに接続し、ポンプ $P_2$ の収容筒11の後端に取付けた二股の連絡管17-2を水室Aの開閉弁 $V_2 - A$ と、水室Bの開閉弁 $V_2 - B$ とに接続する。また、図3(b)の場合は、ポンプ $P_1$ の収容筒11の後端に取付けた三股の連絡管17-1を水室Aの開閉弁 $V_1 - A$ と、水室Bの開閉弁 $V_1 - B$ と、水室Cの開閉弁 $V_1 - C$ とに接続し、ポンプ $P_2$ の収容筒11の後端に取付けた三股の連絡管17-2を水室Aの開閉弁 $V_2 - A$ と、水室Bの開閉弁 $V_2 - B$ と、水室Cの開閉弁 $V_2 - C$ とに接続する。尚、開閉弁は通常の開閉バルブでもよいが、その一例の構成、及び作用、効果は前述の特開公報や実公平5-29420号公報に図解されているので、それを参照されたい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

これによって、水室Aを清掃するときは開閉弁 $V_1 - A$ ,  $V_2 - A$ を閉じて水室A内の水がポンプ $P_1$ ,  $P_2$ の収容筒11, 11に入らないようにし、水室Aの底のドレンを開いて室内の水を外に排出し、水室Aの内部を洗浄する。その間はポンプ $P_1$ ,  $P_2$ を前述のように制御して運転し、水室B, 水室Bの他に水室Cがあるときは水室B, Cの水を開閉弁 $V_1 - B$ ,  $V_2 - B$ や $V_1 - C$ ,  $V_2 - C$ で吸入して送水する。こうして、各水室に設けてある各ポンプ $P_1$ ,  $P_2$ 用の2つの開閉弁 $V_1$ ,  $V_2$ を順番に閉じることにより、全部の水室を順番に清掃することができる。又、1つの水室の清掃が終わったら、その水室のドレンを閉じ、閉じてあった2つの開閉弁を開にすることにより他の水室から水を補給すると共に、全部の水室の低下した水位をレベルスイッチで検出して外からも共通の給

水管で水を補給し、全部の水室の水位を元通りに回復させる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

21 は両端が閉じた吸水主管で、水槽本体の内部を仕切る全部の仕切壁 10 の下部をシールして貫通し、図 1 ( a ) では 2 つの水室 A , B 内に、図 1 ( b ) では 3 つの水室 A , B , C 内に位置する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

各水室の下部には水槽本体の外からの操作でその水室の内部と連通、遮断できる前述の開閉弁  $V_1$  を 1 つ宛設け (  $V_1 - A$  ,  $V_1 - B$  ,  $V_1 - C$  )、この各開閉弁を枝管 22 により上記吸水主管 21 の各室内に位置する部分に接続する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

更に、水槽本体を複数の水室に区劃する仕切壁を貫通するのは吸水主管だけであるから、仕切壁をシールして貫通させる数は仕切壁の数だけで、従来に較べて減少すると共に、配管を立体交叉させる必要がないので配管工事を容易に行える。しかも、吸水主管、枝管、吸水管は水室の底に整然と配列しているので水室の清掃、底の洗浄の邪魔にならず、清掃、洗浄も容易に行える。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明

【補正方法】変更

【補正の内容】

【符号の説明】

10 水槽本体

10 水槽本体の仕切壁

A , B , C 水室

$V_1$  開閉弁

$P_1$  ,  $P_2$  ポンプ

11 ポンプの収容筒

21 吸水主管

22 枝管

23 吸水管

30 導入弁

【手続補正 7】

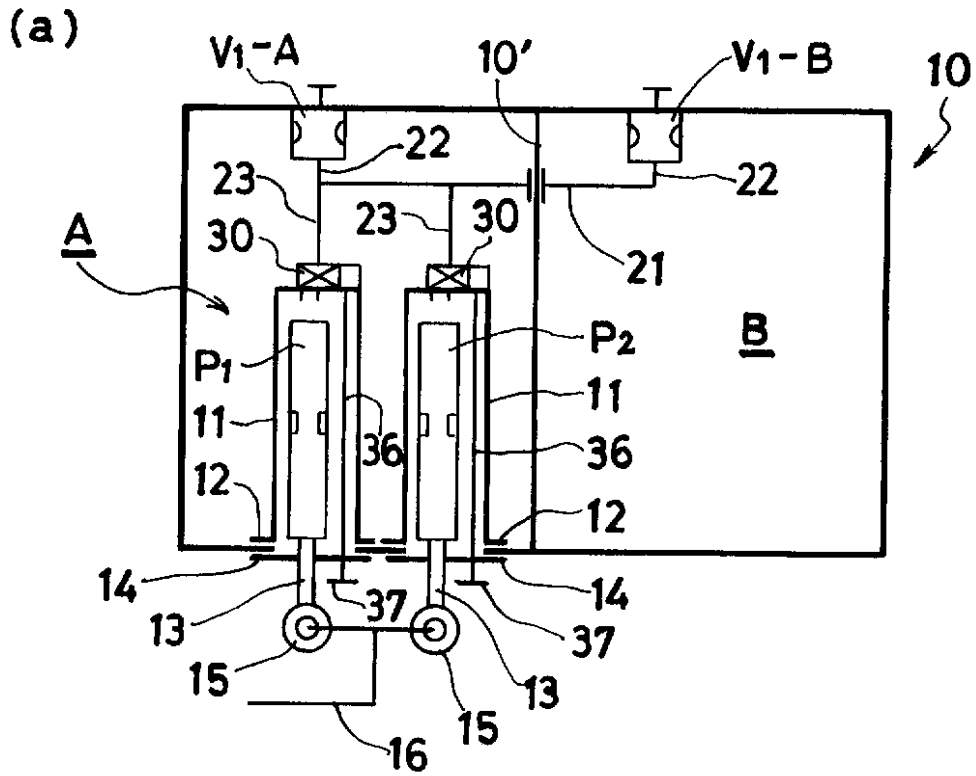
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】



(b)

